

答申事由書（案）

- 1 種 別 史跡名勝天然記念物（植物）
- 2 名 称 大湫白山神社のオハツキイチョウ
（おおくてはくさんじんじゃのおはつきいちょう）
- 3 員 数 1本
- 4 所 在 地 瑞浪市大湫町410番地（白山神社境内）
- 5 所有者の名称 白山神社
- 6 作者、年代及
び由来伝説等 伝・享和2年（1802）奉納

7 事 由

イチョウはイチョウ目イチョウ科イチョウ属に属する、雌木・雄木異株の植物である。イチョウ科の植物は中生代には世界各地で繁栄したが、イチョウは唯一現存する種であり、「生きた化石」として知られる植物である。日本各地に成育し、雌木は秋季に種子（銀杏）を付けるが、ごく一部の個体は銀杏の中でも葉の上に実を結ぶ「御葉付銀杏」を付けるものがある。

一部の固体のみに御葉付銀杏が形成される原因は不明であるが、生育する環境または遺伝子の差にあると考えられており、全国でも30例程度が知られているのみである。

大湫白山神社のオハツキイチョウは雌木で、現在、瑞浪市内で確認されている唯一のオハツキイチョウである。樹齢は200年程度とみられ、幹周は約4.4m、樹高は約37mを計る。主として南側の枝に御葉付銀杏、北側の枝に通常の銀杏を付け、御葉付銀杏の割合は全体の一割程度を占めている。

享和2年（1802）に当時の住民が白山神社に奉納（移植）したものと伝えられており、推定される樹齢とも大きな差異は認められない。イチョウは火に強い性質があることから神社や宿場の防火（類焼防止）、また食料の確保を意図したものと考えられる。

以上のように、大湫白山神社のオハツキイチョウは市内でも類例の少ない貴重な植物であることに加え、樹木の規模も市内に生育するイチョウの中で最大級に属するものである。また、樹木の由来も宿場の歴史と深い関わりを有するものと認められ、また旧宿場の景観を伝えている点からも歴史的に高い価値を有する。

8 採決年月日

平成31年 月 日